



NARA COLLEGE of ARTS

2021

轍と輪



奈良芸術短期大学 広報誌「わだちとわ」VOL.07

発行/奈良芸術短期大学  
企画編集/広報課 デザイン・印刷/グラフトデザイン事務所 発行日/2021年3月1日

VOL.  
07  
2021  
03



### 編集後記

年2回発行の『広報誌わだちとわ』の取材で卒業生のお仕事現場に行かせてもらい、お話を聞いていると共通点が見えてきました。「良い人との出会い」「人のせいにしない」そして、「続ける」。好きな世界で活躍するそんなヒントが詰まっています。卒業生の活躍を知ることのできる「わだちとわ」のバックナンバーは、デジタルパンフで見ることができます。



広報課では、学生や卒業生の活躍を紹介し、さまざまなどころへ繋げて行きたいと考えています。皆様の活躍の報告を楽しみにしています

### 定期購読サービスご利用案内

卒業生の“今まで”と、在学生の“これから”を軸とし、1つの輪として展開する「わだちとわ」(年2回発行)の定期購読をご希望の方は、送付先を広報課までご連絡ください。また、「わだちとわ」では卒業生の受賞や活動報告などを募集しています。

美術科

洋画

日本画

デザイン

陶芸

染織

クラフトデザイン

- ・グラフィックデザイン
- ・メディアデザイン
- ・イラストレーション

- ・メタル
- ・ガラス
- ・テキスタイル
- ・ジュエリー
- ・ウッド
- ・レザー

専攻科



## 好きな分野を一生懸命に学ぶ。 これが将来につながる道だと思います。

絵画系を学ぶのであれば奈良芸の日本画コースへ。

高校生の頃は美術部で油絵を描いていました。ただ、大学に進学して絵を描き続けるのであれば違うジャンルの絵画を学びたいと思い、日本画に興味があることを美術の先生に伝えたところ、日本画を専攻するのであれば奈良芸が良いと進めてくださったことがきっかけでオープンキャンパスに参加しました。そこで、四年制大学で学ぶ内容を2年間で学ぶことができる実技中心のカリキュラムがあることや少人数制で先生方との距離が近いこと、実家から通うことができる場所にあったことなどの理由から入学を決めました。

自主的に制作に取り組むことができる環境。

入学後は先ず、植物や動物、風景の制作に取り組みました。制作に取り掛かると写生に出かけ、草稿紙に下書きをしてから本紙に入り、絵具を自分で溶き時間をかけて作品づくりに取り組んでいました。これは日本画ならではの制作工程だと思います。奈良芸は各自広い制作スペースが確保されていて、大学周辺の趣のある街並みや建物、橿原神宮など自然豊かな環境があるため、自主的に制作に取り組むことができました。そのおかげで一つひとつの工程をしっかりと学ぶことができ、作品づくりに向かうことができたのだと思います。また、三重県の離島である答志島へのスケッチ旅行など、普段とは違う環境で制作に取り組めた課外カリキュラムは新鮮で印象的な思い出です。

好きなことを一生懸命に学ぶことでつながる将来。

就職活動では大学のキャリアサポート室を活用し、エントリーシートの添削や面接指導をしていただきました。美術系の大学は就職が難しいイメージがあるようですが、あまり先々のことになるとられ過ぎず、好きな分野を一生懸命に学ぶことで、美術に直結はしなくとも将来につながるんじゃないかなと思います。私は、絵を描くことと同じくらい化粧品を見ることとメイクをすることが好きだったので就職は化粧品業界に的を絞っていました。

綺麗な商品に囲まれやりがいを実感、女性が長く働く職場。

今は、百貨店にご来店されたお客さまにメイクやスキンケアのご提案をしています。お勧めした商品を気に入ってくれたり、お客さまが喜ばれる姿を見た時にこの仕事のやりがいを実感します。また、毎日綺麗な商品に囲まれて仕事ができることや育児時短勤務、産休の制度が充実しており女性が長く働きやすい職場であることも魅力です。今は、日本画を描く機会が少なくなりましたが、また自然に囲まれた中で日本画を描きたいなと思っています。



自分次第で道は開ける。

美術系大学への進学を考えている人は絶対に志した方が良いと思います。美大には、それまでにはない大学ならではの制作環境がありますし、周りの人たちは絵を描くことやモノづくりが好きで、感性の近い人が多いためたくさんの刺激を受けます。せっかく2年間(4年間)何かを学ぶのであれば好きなことを一生懸命に学べば良いと思います。私は、大学入学前から美術系に直結した仕事に就くことは考えていませんでした。今の会社でも化粧品業界とは直結していない、さまざまな学部を卒業された先輩方や同僚たちと同じ職場で働いています。自分次第でいくらでも道は開けると思いますよ。



### Profile

姫島 雅さん

大阪府出身  
2019年3月 日本画コース卒業  
現在、コーセー化粧品販売株式会社勤務

DECORTÉ



## やってみた先の世界を知ってから 将来は決めればいい。

モノづくりの世界に導いてくださった。

小学生の頃からとにかく絵を描くことやモノづくりが好きでした。それ以外のことにはあまり興味がなかったですね(笑)。美術の授業では先生に褒めてもらいましたし、そこだけは負けたくないって思っていました。今まで振り返ると、節目節目にとても良い先生が私の周りにはいたように思います。高校生の時には、担任の先生がモノづくりが好きな私の適正をみてください、3年生の進路選択の時に芸大を進めてくださいました。また、デッサン教室に通うようにアドバイスもしてくださいました。両親も芸大進学を後押ししてくれましたので、周囲の大人的方がモノづくりの世界に導いてくださったように思います。

好きなことができるステージに立つ。

奈良芸に入学して、まず1回生ではロクロ成形や手びねり成形などの基礎をしっかりと指導していただきました。2回生に進学すると、オブジェや立物などの自由制作をしました。この頃は、好きなことができるステージに立てた喜びで、本当に制作に没頭していましたね。そして、このまま好きなことを続けたいという思いで専攻科に進学しました。専攻科では自主制作を中心に、釉薬や絵付け、造形などのテーマを各自選択し研究制作していました。ただ、ファッションや恋愛といった、大学生が興味を持つようなことを一切ていなかったので、ある意味青春を置き忘れてきましたね(笑)。

好きなことを続ける思い。

奈良芸を卒業する時、高校の先生が知り合いの備前焼の陶芸作家さんを紹介してくださったので、岡山県の工房まで見学に行くことができました。そのことがきっかけで、卒業後は岡山県の備前陶芸センターで1年間訓練し、同年、備前市指定無形文化財の川端文男氏に師事、そこで仕事としての陶芸を4年半きっちりと教えていただきました。その後も、他の窯場で窯焚きのお手伝いなどをし、34歳で独立しました。私の場合、自分の好きなことを続けたい、そのためには何をつくりどう進めれば



Profile

中原 幸治さん

大阪府出身  
1998年3月 陶芸コース卒業  
2000年3月 専攻科／陶芸修了  
現在、陶芸作家  
日本工芸会正会員



良いかということを考えています。その気持ちを大切にすることで技術的にも色々なことがわかり始めますし、新しいステージ、また次の新しいステージと進んで来たように思います。

売ることは評価であり、この仕事の魅力。

今は地元大阪の天王寺にある私の工房と、岡山県備前市にある師匠の工房を行き来し、作品づくりを続けています。昨年は8月に天満屋岡山本店美術ギャラリーで、器や花器など工芸品を扱った個展をし、11月から年末まで岡山県立美術館「第十回 I氏賞受賞作家展」でオブジェなど作品を展示していました。私にとって陶芸は社会と繋がる手段です。良いモノをつくればご購入いただけますし、これは私に対する評価だと思っています。

将来どうするかは、自分で決めるべき。

自分の好きなことや得意なこと、打ち込めることがあります。それができる環境にいるのであれば、素直に選べば良いと思います。ただ、それを続けるのに不安はつきものです。できない理由や要因は、探せば探すほど出てきます。将来仕事をするかどうかは大学在学中に、やってみた先の世界を知った上で、自分に適性があるのかを考えれば良いと思います。将来どうするかは自分で決めるべきで、他人に相談はしても決断を委ねるものではありません。





## 陶芸コース作品展 Installation art「個の集合・構築」

単純な構造でできた2000ピースの陶片。「個の集合・構成」というテーマを基にして着想から制作、焼成そして最終的には空間構成のあらゆる可能性を探るところまで。このinstallation artは陶芸コース生、専攻科生、研究生の特別課題として2020年の6月の着想からスタートした。制作を進める中には文字通り二つの侧面があった。ひとつは2000ピースもの莫大な数を一心不乱に形作り続けるという、ともすれば先の見えにくい単純作業に日々に没頭する時間であり、もうひとつは全員で息を詰めて自指す形を構築するという研ぎ澄まされた時間である。この両極端なふたつの時間を、制作開始の6月から会期直前まで何度も共有することで私達は多くのことを学んだ。緊張感と安定感、不定期なリズムと規則性。空間全体を作品とする立体的可能性を追求する中には相反する無限の拡がりがあった。それを探求することで、やきものという素材の持つ脆さと強さ。古代から続く普遍的な強さ。両方面からアプローチできたのではないかと思う。又、今回の展示は見る人の心に様々な景色を想起してもらいたいという思いで散えて無題とした。そしてその見る人自身にも「構築」に参加してもらう体験スペースを設けたことで、作品をただ鑑賞してもらうだけではなく、表現を考え続けるという行為の大切さを共感してもらえば幸いに思う。

感、不定期なリズムと規則性。空間全体を作品とする立体的可能性を追求する中には相反する無限の拡がりがあった。それを探求することで、やきものという素材の持つ脆さと強さ。古代から続く普遍的な強さ。両方面からアプローチできたのではないかと思う。又、今回の展示は見る人の心に様々な景色を想起してもらいたいという思いで散えて無題とした。そしてその見る人自身にも「構築」に参加してもらう体験スペースを設けたことで、作品をただ鑑賞してもらうだけではなく、表現を考え続けるという行為の大切さを共感してもらえば幸いに思う。

## えほん大賞をW受賞！

デザインコース卒業生の柴田ケイコさんの絵本「パンどろぼう」が、第1回TSUTAYAえほん大賞と第11回リプロ絵本大賞をW受賞しました。また、マクドナルドの「ハッピーセットのおまけ絵本に「かばちゃんのおふろ」が採用されました。



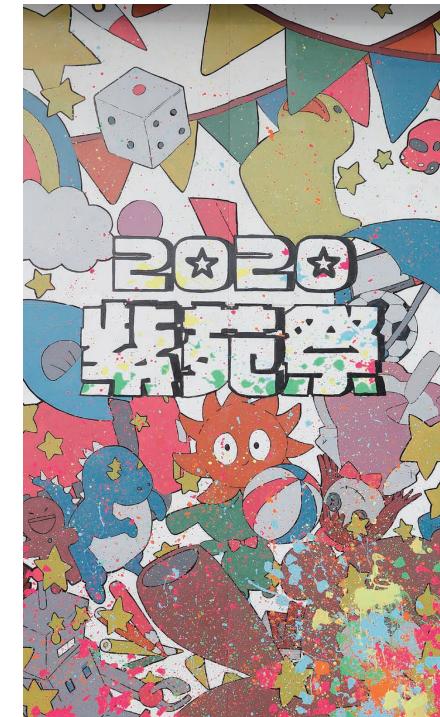
## 第10回 革のデザインコンテスト2020で 最優秀賞を受賞！

年齢、性別、職業、国籍不問の革のデザインコンクール「革コン」で、クラフトデザインコース2回生の巣崎よなさんが最優秀賞を受賞しました。また、植木悠元さんが入賞と佳作の2点入賞、藤本栄優佳さんも入賞しました。このコンクールではデザイン画を提出するクリエイティブ部門と自分のデザインを実際に制作するプロダクト部門があり、今回受賞した3名はいずれもプロダクト部門での受賞です。プロダクト部門最優秀賞者はイタリアのリネアベッレ見本市へ作品と共に招待されます。第6回でもクラフトデザインコースの学生が最優秀賞を受賞しています。



## 紫苑祭(大学祭)、 オンライン作品展を開催！

今年は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、紫苑祭を一般公開せずに入場制限を設けての開催となりました。そして、学生の想いが詰まった作品を観ていただきたいという思いから、作品展はオンラインで公開しました。





## デザインコース写真展「December」開催!

デザインコース1回生と専攻科/デザインの学生らが『CROWD × CLOUD(クラウド)』にて、写真展を行いました。ホワイトボードの壁面には、デザインコース田中栄央さん(1回生)がほっこりするイラストを描いてくれました。ここはミーティングやプレゼン、ギャラリーや映像上映の場として使用できるスペースで、専攻科/デザインの学生らが授業の一環として取り組み、企画から着工、施工まで全てを手がけた、コースの垣根を超えて集える第三の場としてつくられました。



## 専攻科/日本画と卒業生の展覧会 「歎展」開催!

専攻科/日本画1・2回生と卒業生が作品を出品する展覧会『歎展』。2年に一度の開催で、搬入から展示、期間中の受付当番や搬出まで、全てを自分たちで行います。卒業後にそれぞれ個展やグループ展を開催するときの勉強になるので、みんな真剣に取り組んでいます。作品は50号のものから150号のものまでさまざまなサイズの作品が展示されています。日本画作品の他にも授業で制作した模写の展示なども行いました。



## デザインコースメディアデザインクラスで クリスマス会!?

教室の入り口にかわいい雪だるま。壁面には動画が映し出され、天井や机の上も演出されクリスマスムード満点。扉に映っていたカーテンが開くと扉へのマッピング。また、学生らが制作した短編映画とそのメイキングムービーやゲームを鑑賞しました。今後のオープンキャンパスでは学生らが作成したゲーム体験を予定しています。素敵なクリスマス会という名の空間演出の授業でした。



## ナンバープレートをデザイン!

竹取物語発祥の地で靴下の町、茄子が特産そして、本学と包括連携協定を結んでいる奈良県広陵町。その広陵町の50cc以下の原動機付自転車のナンバープレートのデザイン案を、昨年3月からデザインコースの学生らが作成しました。数十点に及ぶデザイン案の中から広陵町のキャラクター『かぐやちゃん』が茄子を持ってニッコリしている、角本 遼さん1回生(当時)のデザインに決定しました。2021年4月から50cc以下の全ての原動機付自転車に取付けられています。町中でかぐやちゃんが走っていると笑顔になりますね。

## 進級制作展

### 陶芸コース

本学聖心会館ギャラリーで、2020年10月2日(金)～10月10日(土)まで陶芸コースの進級制作展が行われました。今年度は新型コロナウィルス感染拡大の影響で授業開始が遅くなりましたが、この様に進級制作展を開催することができます。



### デザインコース

本学聖心会館ギャラリーで、2020年10月19日(月)～10月30日(金)までデザインコースの進級制作展が行われました。パネル作品や絵本、映像作品など約50点の作品展示が行われました。



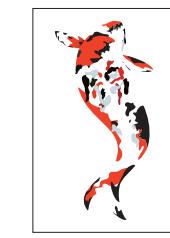
### 洋画コース

本学聖心会館ギャラリーで、2020年11月6日(金)～11月13日(金)まで洋画コースの進級制作展が行われました。現在の2回生が1回生の時に制作した40点余りの作品の展示です。展示は学生らが協力しながら共同作業で行います。展示了の作品を見て、卒業制作に対する気持ちを改めて実感したこと思います。



## 日本タイポグラフィ年鑑 2021 入選!

日本タイポグラフィ協会が発刊する「日本タイポグラフィ年鑑2021」にデザインコースグラフィックデザインクラス2回生の齋藤楓花さんが入選しました。日本タイポグラフィ協会は、グラフィック・デザイナーはもとより、タイプフェイス・デザイナー、研究者、教育者など200名を越える国内・海外の個人会員と法人会員で構成されており、文字、シンボルマーク、ピクトグラムなど視覚言語の創作と研究、それらを駆使したデザインを通してより良いコミュニケーションを追求している団体です。



齋藤 楓花  
「錦」



## 竹内浩一先生の特別授業!

日本画コースでは、昨年に続き日本画家の竹内浩一先生の特別講義を実施しました。今回は、事前に用意していた先生への質問に答えていただきながら、ざっくばらんに講義していただきました。「日本画の制作段階のうち特に大切にしている工程はどこですか?」「制作途中で悩んだことはありますか?またそんな時はどうしていますか?」などなど、今学生が悩んでる質問が飛び交いました。また、先生の生スケッチをたくさん見せていただいたり、専攻科生は一人ひとりの作品の前で講評をしていただきました。